

マネジメント講座

企業が経営を永續させるには、核となる事業の創出や発展が不可欠である。しかし事業を生み出し、成長・発展し続けることは容易ではない。

中小企業の事業展開における課題は事業のライフサイクルである「創出期」「成長期」「成熟期」に分けて考えることができる。政府・金融機関や筆者の調査では、事業展開における主な課題として「資金調達」「人材確保・育成」「商品・サービスの高度化」が多く挙げられている。これらは事業のライフサイクルに一貫した課題であるものの、その時々で優先度や内容が変わってくる。

創出期の重要課題は資金調達で、自己資金の不足や資金調達の難航などがある。金融機関だけでなく、今後は政府系団体の補助金や助成金、資本性の高いローンを活用したという意見が多い。

成長期は事業創出後3〜10年目が目安で、重要視される



事業サイクル別に対処

リスク管理の要点 ⑦

のが人材確保・育成となる。事業拡大には社内の人材を増強しなくてはならない。そのため中小は地元の教育機関と連携してインターンシップ（就業体験）制度に注力している。また日本で技術を習得し活用したいという数多くの外国人留学生が中小へ就職している。近い将来、彼らが海外での販路拡大を担うキーパーソンにもなるため、事業の海外展開を見据えた留学生の積極的採用は欠かせない。

成熟期になると主な課題は商品・サービスの高度化となってくる。経営を安定させるためにも新たな製品・サービスを創出する必要があるが、自社の中核事業を抜本的に見直し、大胆に事業転換する動きも見られる。なかには小さな町工場からIT（情報技術）企業となり上場を果たしたケースもある。政府も、今後このような経営革新や事業転換を実施するための補助金を大幅に拡充するようだ。

（SOMPOリスクケアマネジメント執行役員 原敬徳）

「」の項おわり

2018年2月6日
日経産業新聞